

令和六年十月十九日

麻生区文化祭 麻生区文化協会四十周年記念

第三十六回麻生区俳句大会

入選句集

主催 麻生区文化協会
会場 麻生文化センター



第三十六回麻生区俳句大会開催に当って

麻生区文化協会会長

板 橋 洋 一

清秋の候、皆様には益々ご健勝のことと思います。今年の四月から会長を仰せつかっております板橋洋一と申します。よろしくお願いいたします。

先月行われました俳句講座「A I俳句と俳句のこれから」には多くの方々にお集まりいただき、ありがとうございます。生成A Iの登場によりその影響が将棋などの勝負の世界にとどまらず俳句や短歌などの世界にまで及んでいる状況を聞き、機械に人間が勝ると思っていた感性や経験の分野においても大きく時代が変わってきたことを痛感させられました。

また、俳句講座の質問の中で、気候変動による季語の扱いは如何?というものがありました。地球温暖化による気候変動は自然がもたらす季節感に大きな影響をもたらしています。四季の移り変わりの美しさが俳句の肝でもあります季語に明確に表れていると思いますが、過ぎしやすくほどよい色味が詩心を呼ぶ春秋が希薄になっているような気がいたします。この変化の中で育つ次世代の感覚はどのようなようになっていくか想像

もつきません。

時代や自然の変わりように合わせながら、短い言葉の表現である俳句はまた人々の想像性を高めていくのだろうと考えているところです。

今回の俳句大会においては選者の一人として加えていただきました。応募していただいた多くのおみなさまに感謝申し上げますとともに、一つ一つの句に込められたお気持ちを思い浮かべながら、学びの時になりましたことを喜びに感じております。

今年は麻生区文化協会が発足してから四十周年を迎え、今俳句大会でも特別な賞を設けさせていただきました。文化・芸術のまちづくりが進む麻生の地で、多くの先達が築き残されてきた文化の息吹きを絶やすことなくこれからも時代の変化に対応していきたいと思えます。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

二〇二四年十月十九日

プログラム

第一部

- 一、開会の辞
- 一、会長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、表彰
- 一、閉会の辞

第二部

- 一、当日席題句会
- 一、披講

- 一、高点句の発表・賞品授与

司会 アカデミー部 副部長 橋本めぐる

アカデミー部 橋本めぐる

文化協会副会長 横川はつこう

アカデミー部 橋本めぐる

司会 アカデミー部 橋本めぐる

アカデミー部 参加者全員

アカデミー部 花輪佳子

アカデミー部 齋藤秀章

実行委員長 横川はつこう

アカデミー部 関森田鶴子

麻生区文化祭 第三十六回麻生区俳句大会 入賞作品

川崎市長賞

八十路にもときめきありて落し文

川崎市議会議長賞

畳まれてカフエに息つく白日傘

川崎市教育委員会賞

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

麻生区文化協会会長賞

新盆やスマホの中に夫の声

麻生区長賞

席譲りあう子らの背は汗の地図

麻生市民館長賞

見目の良き茄子を選びて母の馬

川崎市総合文化団体連絡会理事長賞

市制百年祝ふ飛行機虹の中

川崎市観光協会会長賞

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ

麻生観光協会会長賞

アフガンの子に飢餓の蠅まといつく

麻生区文化協会四十周年記念賞

青梅雨や運河に古りし瀬取り舟

梅野威彦

山口ちひろ

近松法子

本多信子

梅原操

松原賀壽子

菅原敬子

細貝昭吾

井上美沙子

横川はつこ

優秀賞

危ふきは水の地球よ芋の露	内山 弘幸	村中の水奔りだす田植かな	伊原 文夫
折り畳む如くに暮るる秋の空	池内 英夫	焼きたてのクロワッサンの香巴里祭	上野 浩
終戦日俘虜ナンバーの父の文	山室みゆき	半夏生写経の坊に墨香る	大橋 政雄
ほの甘く炊けて金婚栗おこわ	角田 珠子	すんなりと出来ぬ脱皮や汗のシャツ	雨宮寿美子
遠雷や父の小言を聞くように	馬場身江子	一口の水の甘さや原爆忌	野澤 豊子
相模灘夕日踏みゆく浜千鳥	都留 嘉男	絵本選る親子揃ひの夏帽子	門伝 史会
街ピアノ人幸せに秋の風	塩澤 烈子	茄子の紺元氣をもらふ畑仕事	庄司 鈴子
敗者にも学ぶ盛夏のパリ五輪	山室 茂樹	断捨離の捨てし身軽さ枯尾花	橋本めぐる
天辺で部落を見張る木守柿	小沢 卯月	ちゃん付けて呼ばるる里の盆踊り	朝岡芙貴代
生温き水もて洗ふ熱き墓	山岸 和言	種飛ばす一人遊びの鳳仙花	久保田秀司

朝岡 芙貴代 選

特選 「業平」の隣「北斎」菖蒲園

のぞみ号濃尾平野の青田飛ぶ

心まで痒みうづまく花粉症

入選 雨やむを待ちきれずして蝸せみの声

かき氷はじめましたと糸電話

貌かおすでに草原の騎士子かまきり

尾花波夕日の色を吸ひ尽くす

鯛焼うっかり紙袋で泳ぐ

すんなりと出来ぬ脱皮や汗のシャツ

日向ぼこかつて昭和の快男児

炎天のキッチンカーよりカレーの香

畳まれてカフェに息つく白日傘

抱き起こす雨をこぼして秋ざくら

転職の話さらつと缶ビール

尚飾る知命過ぐ子の兜かな

神宝 浩

梅原 操

芹澤しょう子

菅原 敬子

細貝 昭吾

横川はつこう

池内 英夫

松本 紀子

雨宮寿美子

角田 珠子

松原賀壽子

山口ちひろ

馬場身江子

米井 克夫

森本美津子

池内 英夫 選

特選 牛の眸に溶けて夕焼極まれり

天辺で部落を見張る木守柿

半夏生写経の坊に墨香る

入選 砂の城崩す夕波晩夏光

相模灘夕日踏みゆく浜千鳥

朝顔の蔓つるに手を貸す雨上がり

風鈴市千の音和す声明に

富士の山どつしりと座す野分あと

日向ぼこかつて昭和の快男児

土手踏みて草の湿りや水温む

昆布干す島にひとつの信号機

秋深し情念もゆる能舞台

花枇杷や十字秘めたる慈母観音

抱き起こす雨をこぼして秋ざくら

スタンドに球児一礼夏終わる

井上美沙子

小沢 卯月

大橋 政雄

富山ゆたか

都留 嘉男

三浦貴美子

藤森 成雄

花輪 佳子

角田 珠子

梅野 威彦

大澤 裕子

三山まさみ

山口ちひろ

馬場身江子

荒井おさむ

板橋洋一選

特選

街ビアノ人幸せに秋の風

塩澤 烈子

若竹や伸びる我が子の知識欲

大森 実

「虎に翼」目覚める女性の熱き夏

宮沢多佳年

入選

樂聖は年の瀬第九つゆ知らず

内山 元

涼しさに房った氣力何をしよ

内山 ゆり

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ

細貝 昭吾

アフガンの子に飢餓の蠅まといつく井上美沙子

水中花銀幕女優のプロマイド 横川はつこ

敗者にも学ぶ盛夏のバリ五輪

山室 茂樹

危ふきは水の地球よ芋の露

内山 弘幸

夏みかん貰い手のなきごろんごろ

芹澤しょう子

ざんばらの春場所輝く能登の星

森 智志

バックホーム浜風に乗り一閃

市塚茂二郎

八十路にもとききありて落し文

梅野 威彦

シャワーある事ありがたき真昼かな

野口 寒水

特選

空蟬や力残れる爪の先

塩澤 烈子

折り畳む如くに暮るる秋の空

池内 英夫

闇を出て闇をひらきし揚花火

伊原 文夫

入選

遠雷や父の小言を聞くように

馬場身江子

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ

細貝 昭吾

貌すでに草原の騎士子かまきり

横川はつこ

古書市に留守番の児や赤のまま

横川はつこ

桃啜る少女にありし女の目

井上美沙子

夏みかん貰い手のなきごろんごろ

芹澤しょう子

朝顔やコトンと新聞受ける音

齋藤 舟小

昆布干す島にひとつの信号機

大澤 裕子

絵本選る親子揃ひの夏帽子

門伝 史会

ブラウスと同じ模様の日傘行く

眞岡 八重

磯鴨いそひよの声澄む朝の長湯かな

森川 隆司

尚飾る知命過ぐ子の兜かな

森本美津子

内山弘幸選

笠原秋水選

特選

十葉の群れて抜かるる運命さだめかな
草刈りのたつた独りや多摩丘陵

春永 真央

上山 暢子

一口の水の甘さや原爆忌

野澤 豊子

入選

早暁の青墨の香や秋涼し
笑ふ日も泣く日も空に天の川

梶野喜久子

花輪 佳子

梅雨に入る写経の紙のうす湿り

都留 嘉男

天辺で部落を見張る木守柿

小沢 卯月

生温き水もて洗ふ熱き墓

山岸 和言

空蟬や力残れる爪の先

塩澤 烈子

気兼ねなき友や八十路の夏の宿

豊田 愉楽

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ

細貝 昭吾

列島の酷暑を煽る街宣車

米井 克夫

ほの甘く炊けて金婚栗おこわ

角田 珠子

満月も乗せて透明エレベーター

松本 紀子

戦いくさなき世は夢となり原爆忌

齊田 裕子

齋藤秀章選

特選

玄関にドングリふたつ孫帰る
人の気の温ぬくさも湯気におでん店だな

市塚 照子

森本美津子

冬の雷修羅も仏も身のうちに

森本美津子

入選

貌かおすでに草原の騎士子かまきり
村中の水奔りだす田植かな

横川はつこう

伊原 文夫

空蟬のいずれも猫背吾もまた

河野眞砂子

未伏の檻と化したる家居かな

梅野 威彦

置まれてカフェに息つく白日傘

山口ちひろ

曲る度西日に射らる帰路のバス

馬場身江子

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

近松 法子

病む妻の酌しおらしく秋の宿

笠原 秋水

種飛ばす一人遊びの鳳仙花

久保田秀司

春灯やゆくあてもない旅の地図

森本美津子

替えたきは心模様や衣替え

森本美津子

五輪とは平和の祭典合歓の花

吉野 芳子

塩澤 烈子 選

特選 祭笛夜店に小さな過去を買う

さんばらの春場所輝く能登の星

麻生に虹長寿一位の歴史のせ

入選 新盆やスマホの中に夫の声

夏休み老いのドリルはすぐ疲れ

秋天へ一番やりの刺さりゆく

気がかりな地球のゆくへ秋暑し

戦なき世は夢となり原爆忌

餌をねらふ不動の鷺や秋の風

甲板や地球の丸さ知る秋に

役目終へ案山子アートの田んぼかな

不規則に夫の着く杖そぞろ寒

練るほどに草の色濃く蓬餅

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

木の葉髪修羅の貌かおみる夜の鏡

井上美沙子

森 智志

山田ミツエ

本多 信子

本多 信子

滝澤 義忠

雨宮寿美子

齊田 裕子

西川 陽子

北條 雨鮎

橋本めぐる

早川 靖子

笠原 喜香

近松 法子

森本美津子

菅原 敬子 選

特選 席譲りあう子らの背は汗の地図

折り畳む如くに暮るる秋の空

種飛ばす一人遊びの鳳仙花

入選 遠雷や父の小言を聞くように

相模灘夕日踏みゆく浜千鳥

堂々とかまきりの子も斧かざす

大鍋の柚子かき回す吾れは魔女

天辺で部落を見張る木守柿

蟬ひとつ燃やし尽くして命果つ

竹林にそよと風あり今朝の秋

戦なき世は夢となり原爆忌

茄子の紺元気をもらふ畑仕事

断捨離の捨てし身軽さ枯尾花

スタンドに球児一礼夏終わる

「虎に翼」目覚める女性の熱き夏

梅原 操

池内 英夫

久保田秀司

馬場身江子

都留 嘉男

井上 加代

芹澤しより子

小沢 卯月

山 吹

野村 邦男

齊田 裕子

庄司 鈴子

橋本めぐる

荒井おさむ

宮沢多佳年

関 森 田 鶴 子 選

特選

花みもざカレーライスに割り卵 横川はつこう

畳まれてカフェに息つく白日傘 山口ちひろ

レシビなど祖母は残さず露の味噌 佐藤友枝子

入選 夏燕諏訪湖に波の立つ日かな 都留 嘉男

木漏れ日のわらべ地蔵に苔の花 柿沼 正之

しづかさや湖底に映る雲の峰 大谷袈裟次

落款の朱肉うすれて養花天 鯉淵 彩香

よそゆきの母の匂や楠若葉 小沢 卯月

くつきりと丹沢稜線夕月夜 花輪 佳子

朝顔やコトンと新聞受ける音 齋藤 舟小

見目の良き茄子を選びて母の馬 松原賀壽子

願ひごとたつたひとつや星祭 橋本めぐる

曲る度西日に射らる帰路のバス 馬場身江子

道端に逸れて咲ける蕎麦の花 久保田秀司

スタンドに球児一礼夏終わる 荒井おさむ

土 屋 昌 庸 選

特選

藤椅子や母在りし日を彷彿と 上山 暢子

麻生区に山ゆり植えて長寿の区 池内 英夫

平らけし木耳^{きみみ}育つ防空壕 山岸 和言

入選 市制百年祝ふ飛行機虹の中 菅原 敬子

街ピアノ人幸せに秋の風 塩澤 烈子

敗者にも学ぶ盛夏のパリ五輪 山室 茂樹

幾年の雌伏ぞ小さき蟬の穴 山岸 和言

気がかりな地球のゆくへ秋暑し 雨宮寿美子

一口の水の甘さや原爆忌 野澤 豊子

山ゆりのようやく根づく今朝の庭 五十嵐みつこ

新米と聞けば目の色輝やけり 野口 寒水

甘^い諸堀りや子等の歓声響く里 北條 雨鈍

断捨離の捨てし身軽さ枯尾花 橋本めぐる

生と死のはざまに生きて年惜しむ 野木 啓道

病む妻の酌しおらしく秋の宿 笠原 秋水

都 留 嘉 男 選

特選

牛の眸に溶けて夕焼極まれり

井上美沙子

人知れず時を背に巻くかたつむり

芹澤しょう子

見目の良き茄子を選びて母の馬

松原賀壽子

入選

みな闇を花火の空に捨ててくる

細貝 昭吾

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ

細貝 昭吾

古書市に留守番の児や赤のまま

横川はつこう

桃啜る少女にありし女の日

井上美沙子

祭笛夜店に小さな過去を買う

井上美沙子

青梅雨や運河に古りし瀬取り舟

横川はつこう

卯の花腐し本を睡らす指栗

松本 紀子

人生は時折佳き日柚子匂う

松本 紀子

花枇杷や十字秘めたる慈母観音

山口ちひろ

秋桜風しなやかに躲しけり

早川 靖子

春灯やゆくあてもない旅の地図

森本美津子

折り畳む如くに暮るる秋の空

池内 英夫

豊 田 洋 子 選

特選

アフガンの子に飢餓の蠅まといつく

井上美沙子

生温き水もて洗ふ熱き墓

山岸 和言

替えたきは心模様や衣替え

森本美津子

入選

打ち水や土のにはひの立ち昇り

玉川 孝月

席譲りあう子らの背は汗の地図

梅原 操

人生は時折佳き日柚子匂う

松本 紀子

空蟬のいづれも猫背吾もまた

河野真砂子

様々の卒業重ね日々自由

上田 彩子

片や銃片や五輪の夏果てぬ

中井紀久子

夏の雲坂のうえまでくらしあり

五十嵐みつこ

断捨離の捨てし身軽さ枯尾花

橋本めぐる

不規則に夫の着く杖そぞろ寒

早川 靖子

ままごとのシェフの振る鍋木の寒跳ぶ

近松 法子

転職の話さらつと缶ビール

米井 克夫

尚飾る知命過ぐ子の兜かな

森本美津子

西村睦子選

特選

新盆やスマホの中に夫の声

本多 信子

ほの甘く炊けて金婚栗おこわ

角田 珠子

夕立来て油弾けるフライパン

貴島 一晃

入選

鬼百合の向きあちこちや古戦場

馬場身江子

コスプレの忍者駆け出す驟雨かな

神宝 浩

危ふきは水の地球よ辛の露

内山 弘幸

天国に続く道かも大花野

山室みゆき

落款の朱肉うすれて養花天

鯉淵 彩香

卯の花腐し本を睡らす指栗

松本 紀子

幾年の雌伏ぞ小さき蟬の穴

山岸 和言

空蟬のいずれも猫背吾もまた

河野眞砂子

一口の水の甘さや原爆忌

野澤 豊子

花疲れベッドへ放るルームキー

山口ちひろ

不規則に夫の着く杖そぞろ寒

早川 靖子

レシビなど祖母は残さず露の味嚙

佐藤友枝子

橋本めぐる選

特選

春光へ透かして入るる針のめど

鯉淵 彩香

焼きたてのクロワッサンの香巴里祭

上野 浩

青梅雨や運河に古りし瀬取り舟

横川はつこう

入選

市制百年祝ふ飛行機虹の中

菅原 敬子

返す手の所作美しき初点前

都留 嘉男

ゴンドラを吞みゆく雲やすすぎ原

池内 英夫

三毛猫の伸び一番や春一番

内山 弘幸

地震の地や復興癒す盆踊り

浅川 壽雄

運動会子に引き摺られゴールイン

小沢 卯月

伝言板とうに無い駅夕月夜

花輪 佳子

日向ぼこかつて昭和の快男児

角田 珠子

絵本選る親子揃ひの夏帽子

門伝 史会

甘^い諸堀りや子等の歓声響く里

北條 雨鮎

病む妻の酌しおらしく秋の宿

笠原 秋水

野分あと五重塔の屋根の反り

関森田鶴子

花輪佳子選

特選

敗者にも学ぶ盛夏のバリ五輪

山室 茂樹

八十路にもときめきありて落し文

梅野 威彦

心して磨ぐや新米手に掬ひ

野口 寒水

入選

遠雷や父の小言を聞くように

馬場身江子

相模灘夕日踏みゆく浜千鳥

都留 嘉男

空蟬や力残れる爪の先

塩澤 烈子

ふるさとの匂い立つかな日照り雨

梅原 操

終戦日俘虜ナンバーの父の文

山室みゆき

大鍋の柚子かき回す吾れは魔女

芹澤しょう子

村中の水奔りだす田植かな

伊原 文夫

気がかりな地球のゆくへ秋暑し

雨宮寿美子

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

近松 法子

野分あと五重塔の屋根の反り

関森田鶴子

今年また能登の棚田に稲の花

齊田 裕子

抱き起こす雨をこぼして秋ざくら

馬場身江子

馬場身江子選

特選

秋桜風しなやかに躲しけり

早川 靖子

折鶴よ八月の空へはばたいて

西山 静子

鉦叩先ず吾が胸の闇を打ち

森本美津子

入選

水を打つ大地が黒き呼吸せり

細貝 昭吾

苗木市名札に添へし花言葉

都留 嘉男

梅干すや地球の異変気がかりに

塩澤 烈子

危ふきは水の地球よ芋の露

内山 弘幸

卯の花腐し本を睡らす指菜

松本 紀子

すんなりと出来ぬ脱皮や汗のシャツ

雨宮寿美子

見目の良き茄子を選びて母の馬

松原賀壽子

心して磨ぐや新米手に掬ひ

野口 寒水

甘諸堀りや子等の歓声響く里

北條 雨鈍

役目終へ案山子アートの田んぼかな橋本めぐる

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

近松 法子

列島の酷暑を煽る街宣車

米井 克夫

北條秀衛選

特選

新盆やスマホの中に夫の声

本多 信子

苗木市名札に添へし花言葉

都留 嘉男

夏の海地球のまん中クルーズ船

北條 鈴子

入選

尼寺の紫陽花包む絹の雨

玉川 孝月

打ち水や土のほひの立ち昇り

玉川 孝月

新涼や追肥鋤き込む農夫の背

井上美沙子

風鈴市千の音和す声明に

藤森 成雄

村中の水奔りだす田植かな

伊原 文夫

半夏生写経の坊に墨香る

大橋 政雄

ほの甘く炊けて金婚栗おこわ

角田 珠子

茄子の紺元氣をもらふ畑仕事

庄司 鈴子

夏の雲坂のうえまでくらしあり

五十嵐みつこ

秋深し情念もゆる能舞台

三山まさみ

転職の話さらっと缶ビール

米井 克夫

千羽鶴仲良く連れ添ひ地藏盆

山田ミツエ

松本紀子選

特選

青梅雨や運河に古りし瀬取り舟

横川はつこう

いそひよ磯鴨の声澄む朝の長湯かな

森川 隆司

招涼の珠は何処や竜淵に

近松 法子

入選

涼しさに房った氣力何をしよ

内山 ゆり

コスプレの忍者駆け出す驟雨かな

神宝 浩

瀬渡し舟朝焼けの帆を畳み込む

池内 英夫

尾花波夕日の色を吸ひ尽くす

池内 英夫

疲れ果てどんぐり駒の共倒れ

池内 英夫

深閑と朝空深き霜くすべ

浅川 壽雄

一粒の「救心」に見る溽暑かな

鯉淵 彩香

たそがれて鄙に残りし稲架香る

滝澤 義忠

すんなりと出来ぬ脱皮や汗のシャツ

雨宮寿美子

畳まれてカフェに息つく白日傘

山口ちひろ

杖たより雀隠れを踏みしめる

笠原 喜香

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

近松 法子

門 伝 史 会 選

山 崎 なおふみ 選

特選 八十路にもときめきありて落し文 梅野 威彦

出穂の田に風渡りゆく秋夕焼 大橋 政雄

百年の市政祝ぐ蟬時雨 朝岡芙貴代

入選 市制百年祝ふ飛行機虹の中 菅原 敬子

ひとことの言へぬ後悔髪洗ふ 細貝 昭吾

梅干すや地球の異変気がかりに 塩澤 烈子

地震の地や復興癒す盆踊り 浅川 壽雄

村中の水奔りだす田植かな 伊原 文夫

せせらぎの音を纏ひて夏の蝶 長谷川英俊

半夏生写経の坊に墨香る 大橋 政雄

緑立つ庭木で餌をせがむ鳥 秋場 正美

すんなりと出来ぬ脱皮や汗のシャツ 雨宮寿美子

ほの甘く炊けて金婚栗おこわ 角田 珠子

末伏の檻と化したる家居かな 梅野 威彦

見目の良き茄子を選びて母の馬 松原賀壽子

特選 席譲りあう子らの背は汗の地図 梅原 操

絵本選る親子揃ひの夏帽子 門 伝 史会

畳まれてカフエに息つく白日傘 山口ちひろ

入選 鬼百合の向きあちこちや古戦場 馬場身江子

虫の声浴室灯火に一呼吸 内山 ゆり

雨やむを待ちきれずして蜩せみの声 菅原 敬子

街ピアノ人幸せに秋の風 塩澤 烈子

新涼や追肥鋤き込む農夫の背 井上美沙子

酔芙蓉明日は開花か薄化粧 三浦貴美子

尾花波夕日の色を吸ひ尽くす 池内 英夫

若竹や伸びる我が子の知識欲 大森 実

盆唄や杖の身風にきくばかり 梶野喜久子

土くれの虚抜菜抱き友来たる 坂井 英子

日向ぼこかつて昭和の快男児 角田 珠子

磯蟹の足跡消して朝の潮 田村 明照

山室樹声 選

特選

いつまでも子猫のままでこのままで 石田 厚生

八十路にもときめきありて落し文 梅野 威彦

ちゃん付けて呼ばるる里の盆踊り 朝岡美貴代

目瞑ればわだつみの声終戦忌 富山ゆたか

なつかしき方言飛び交ふ夏休み 菅原 敬子

盆踊土ける下駄の心地よさ 塩澤 烈子

療養の母とハミングウララけし 高品 小溪

終戦日俘虜ナンバーの父の文 山室みゆき

小鳥来て倅せこっそり置いていく 松本 紀子

師と誓ふ百才春の句会かな 南 孝子

五輪とは平和の祭典合歓の花 吉野 芳子

たまゆらの命ともして初蛭 野澤 豊子

ひたすらに毛毬に跳ねる仔猫かな 亀谷 学

練るほどに草の色濃く蓬餅 笠原 喜香

替えたきは心模様や衣替え 森本美津子

山元 志津香 選

特選

楽聖は年の瀬第九つゆ知らず 内山 元

富士の山の従へ高し雲の峰 山室 茂樹

終戦日俘虜ナンバーの父の文 山室みゆき

新盆やスマホの中に夫の声 本多 信子

冷房の効き過ぎ猫の微熱抱く 細貝 昭吾

相模灘夕日踏みゆく浜千鳥 都留 嘉男

人形の姫にやさしき菊師の手 都留 嘉男

盆踊土ける下駄の心地よさ 塩澤 烈子

貌^{かお}すでに草原の騎士子かまきり 横川はつこう

祭笛夜店に小さな過去をかう 井上美沙子

敬老日万歩^{かな}適える足踏みをも 三浦貴美子

生温き水もて洗ふ熱き墓 山岸 和言

役目終へ案山子アートの田んぼかな 橋本めぐる

麻生に虹長寿一位の歴史のせ 山田ミツエ

開花^せ急ぐ竜舌蘭に憂ひ有り 宮沢多佳年

山 本 奈保美 選

特選

市制百年祝ふ飛行機虹の中

菅原、敬子

焼きたてのクロワッサンの香巴里祭

上野 浩

ちゃん付けて呼ばるる里の盆踊り

朝岡美貴代

入選

夏休み老いのドリルはすぐ疲れ

本多 信子

大花火グラスも君も赤に染む

山下 升子

席譲りあう子らの背は汗の地図

梅原 操

春光へ透かして入るる針のめど

鯉淵 彩香

谷戸へ寄す緑の波の十重二十重

芹澤しょう子

老いの歩にあはす道行き花吹雪

門伝 史会

モネの庭青い睡蓮雨の中

三山まさみ

朝摘みの庭花生けて魂迎

西川 陽子

茄子の紺元氣をもらふ畑仕事

庄司 鈴子

野分あと五重塔の屋根の反り

関森田鶴子

幾ヘルツか樹も話すてふ若葉風

梶野貴久子

豆飯の豆数ふ子の睫毛濃く

森本美津子

横 川 はつこう 選

特選

みな闇を花火の空に捨ててくる

細貝 昭吾

危ふきは水の地球よ芋の露

内山 弘幸

盆唄や杖の身風にきくばかり

梶野喜久子

入選

五月富士規制をよそに凜として

扇谷 正紀

遠雷や父の小言を聞くように

馬場身江子

梅雨に入る写経の紙のうす湿り

都留 嘉男

木漏れ日のわらべ地蔵に苔の花

柿沼 正之

夏講習ナイチンゲールの愛と死と

山下 升子

終戦日俘虜ナンバーの父の文

山室みゆき

夏みかん貰い手のなきごろんころ

芹澤しょう子

ブルタブのなかなか開かぬ油照

野澤 豊子

葛咲けりいざ鎌倉の切通し

野村 邦男

見目の良き茄子を選びて母の馬

松原賀壽子

断捨離の捨てし身軽さ枯尾花

橋本めぐる

ままごとのシェフの振る鍋木の実跳ぶ

近松 法子

吉田 功 選

特選

夏草に覆われしまま鏑鉄路

荒梅雨や予報士傘に身を疎め

アフガンの子に飢餓の蠅まといつく

深呼吸して富士山の山開き

牛の眸に溶けて夕焼極まれり

百万都市の飛地の空やどんど煙

くつきりと丹沢稜線夕月夜

風吹けば頬に冷んやり秋気配

砂あらし去り十三湖蜩舟

今年また能登の棚田に稲の花

警報の多き日々なり時計草

花疲れベッドへ放るルームキー

茄子の紺元氣をもらふ畑仕事

種飛ばす一人遊びの鳳仙花

スタンドに球児一礼夏終わる

原 佳子

石田 厚生

井上美沙子

玉川 孝月

井上美沙子

藤森 成雄

花輪 佳子

山 吹

竹田 勲央

齊田 裕子

金森 俊子

山口ちひろ

庄司 鈴子

久保田秀司

荒井おさむ

あとがき

麻生区文化協会四十周年・第三十六回麻生区俳句大会入選句集をお届けいたします。

募集期間が記録的な猛暑日の続く夏にも関わりませず、本年は昨年を上回る四七四句の応募がありました。ご投句下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

全応募句を作品集にまとめ、二十五名の選者をお願いし、特選三句、入選十二句の計十五句をご選句いただきました。特選は二点、入選は一点として集計の結果、入賞者十名、優秀賞者二十名を別記の通り決定しました。

ただし、お一人で複数句が上位の得点を得られました方は最上位の句のみの賞となりましたこと、ご了承ください。

また俳句大会の当日第二部においては席題句会

を行い、相互選により高点句には賞品を授与することとしております。

文化協会は俳句を愛する麻生の風土を大切に多くの方々と共に、この歴史のある大会の一層の発展にむけこれからも務めて参ります。俳句の世界の活力を持続していくためにも、皆様の句会にぜひ若い方、俳句は初めてという方もお誘いくださいまして、俳句を広めて頂きたいをお願い申し上げます。

明年もご応募下さいますことをお願い申し上げますとともに、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

令和六年十月十九日

第三十六回麻生区俳句大会実行委員会

委員長 横川はつこう

発行

川崎市麻生区万福寺一―五―二
(麻生文化センター内)

麻生区文化協会

会長 板 橋 洋 一

編集

第三十六回麻生区俳句大会

実行委員長 横 川 はつこ